

日蓮宗尼僧法団の発足と経緯

年表中に記載のある日蓮宗尼僧法団について、『日蓮宗事典』には以下の記述がある。

日蓮宗尼僧法団は本部を身延山丈六堂内に置き関東、関西、北陸、九州に支部を置く。宗門唯一の尼僧結集体である。

日蓮聖人の教えをまもり本仏釈尊に給仕し、唱題行に徹し、祖山中心正法護持の信念を確立し、行学二道の研修に励み、毎月結集、団員相互の信行増進、尼僧の地位向上に努め、異体同心に宗風宣揚と社会福祉に貢献することを目的としている。

昭和26年10月8日創立の日から満一カ年間は身延山上ノ山無縁墓、3600基を整備。

これを浄縁行として毎月三泊四日の研修と共に全国結成を遂げ、370余の尼僧の存在を確認した。

昭和39年6月17日総会の砌、機関誌「さんげ」と命名（投票による）(一) 懺悔、(二) 三解（まじめに純粹に真剣に）、(三) 散華（清らかに、不惜身命の伝道）を誓い合った。

団員は信行道場終了の剃髪尼であること。

運営は理事制で事務局担当（総務、庶務、教化、経理）で役員は総裁の外は任期二カ年再任も認める。

昭和47年から52年の間に庫裡、尼衆寮、講師室等々を設置し、尼僧専門道場として毎月次の行学を実施中である。

(一) 正しい唱題行の修練、(二) 法要講習と布教講習（八日―九日）、(三) 身上相談、(四) 尼僧養成（身延山高校並びに大学、通学の寮）、(五) 宗門の信行道場終了後の法器の資質向上機関として行学研修。

（「宗門唯一の尼僧結集体」と記載があるが、現在は「全国日蓮宗女性教師の会」などの組織も活動している）

『真尼道』（谷川善妙・梶山日深、1982年、私家版）などによれば、

昭和22年、尼僧聯盟を創立。26年に尼僧法団と改名、梶山智孝法尼が中心となって約一年をかけ、山中に散在していた無縁石塔を上の方に集めて三千六百基を整備し、その基礎を造った。この時、時の深見日円法主猊下から丈六堂の庫裡を尼僧寮に当てることを許可され、丈六堂と無縁墓地の給仕を委託された。

とある。

先行研究（馬島浄圭『近代教団史にみられる尼僧たち』一村雲尼公と尼僧法団を中心に一）（『現代宗教研究』第40号）によれば、以下の通りである。

昭和26年10月に全日本仏教尼僧法団が結成され、翌27年10月28日梶山智孝、谷川善妙ら有志尼僧が中心となって『日蓮宗尼僧法団』を結成する。31年10月11日に管長増田日遠を迎え、身延山本師堂で全国日蓮宗尼僧法団結成大会を開き本格的な活動を開始する。また団員は信行道場終了の剃髪尼とする。本部は身延山丈六堂内に置き、関東関西北陸・九州に支部を持っていた。主な活動として、沖縄激戦地慰霊行脚、ハワイ慰霊行脚、尼衆宗学林再興、尼僧信行道場開設、広島・呉原爆被災者供養、伊勢湾台風三十三回忌法要等々。梶山智孝（31歳で当時の日蓮宗

教学部長・馬田行啓について剃髪得度、昭和17年立正大学宗学科卒)の傑出した指導力と谷川善妙(昭和21年尼衆宗学林卒業、立正大学宗学科卒)・花井浄深(大正14年尼衆宗学林卒業)ら優秀な人材に恵まれ、昭和30年代から60年代にかけて宗門内外にその存在を誇った。その後、法団は役員の刷新がままならず次第に求心力を弱めて行く。法華真学(昭和21年尼衆宗学林卒業)団長以下新たな役員体制で身延山祖廟において尼僧法団の再生を誓ったのは、平成17年9月27日のことである。

なお、日蓮宗新聞の平成16年5月10日号には、「五十周年の節目とし、身延山久遠寺に丈六堂をお返しすることを決めた」との記載がある。

今回、現代宗教研究所としても、改めて日蓮宗尼僧法団の歴史や現在の状況を当報告書に留め置くため、関係者に取材を試みたものの、主立った役員の高齢化により聞き取りが困難であったこと等の事情のため、結論として取材を断念せざるを得なかったことを付記したい。



(1) 平成16年(2004)5月10日(月曜日) (毎月3回1日10日20日発行・年間3600円)

全国行脚や海外布教 無縁墓整備に力

昭和二十二年、尼僧聯盟を創立。二十六年に尼僧法団と改名、楓山智孝の法尼が中心となり、身延山に散在する無縁の墓碑を洗い浄可され、丈六堂の管理を

昭和二十二年、尼僧聯盟を創立。二十六年に尼僧法団と改名、楓山智孝の法尼が中心となり、身延山に散在する無縁の墓碑を洗い浄可され、丈六堂の管理を

胎内から願文など発見
修復のお釈迦さまの手足から

谷川団長(右から三番目)と最後までお給仕した筒井法尼(同四番目)、天田法尼(同五番目)

お給仕の他に、世界の平和を祈念すると共に、仏さまのお言葉とお心を少しでもお伝えしようと、全国行脚や海外布教などの活動を行ってきた。

納入品が数点発見された。今回発見されたのは先祖供養のために行ったお題目写経や文書で、年代や信仰者を特定する上で貴重な資料となる。調査に当たった望月眞澄身延山大学助教授の話では、その背景には江戸時代、江戸に身延山久遠寺の祖師像の公開帳を行ったことあり、当時の身延山における法華信仰を支えていたのが江戸の庶民で、菩提供養のために努めていたお題目写経や願文などを、お釈迦さまの造立、または修復の際に納経したのではないかと考えられるという。

日蓮宗新聞社より提供